

平成 30 年度 わかば保育園 「自己評価および学校〔園〕関係者評価」

1. 園の教育目標

『 やさしい子 げんきな子 笑顔あふれる子 』

- 相手意識・・・あたたかい思いやりをもって、みんなとできる子・かかわり合える子
- 本物・・・自然に親しみ、美しさや不思議さを感じ取り、表現する子ども
- 共感・・・子どものきらりを捉え、認め、共に喜び合える職員

2. 本年度の重点目標

子ども自ら興味・関心をもって、人や自然、もの、出来事と関わる中で、気づきや発想が深まる豊かな感性の育ちを求めて～一人ひとりの子どものきらりと輝く姿から～

3. 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない

D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	B
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	B
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	B
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	A
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	A
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	B
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	A
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	B
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	A
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	B
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	A
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	A
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	B
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	B
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	A
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	A

4. 学校関係者評価委員(モニター)からの評価

- ・遊びの道具を多くすることより、自然の中で過ごすことを大事にしていることがいい。
- ・子どもに考えさせることを多く取り入れた活動となっていることが、個性の伸長につながっているように感じる。
- ・畑の栽培活動を通して、「命を大切にする」子どもが育ってきている。応援隊だけではなく保護者も一緒に関わられるようになってきていることがいい。
- ・施設訪問などで人と関わることにより、相手の気持ちを考えた姿が多くみられるようになってきている。

5. 今年度の総合的な園評価と次年度への課題

- ・子どものキラリとする姿を求め、指導をしすぎないようにすることで子どものものの見方や捉え方のすごさを捉えることができるようになってきたことで、子どもは一層主体的に活動できるようになってきている。栽培活動やカイコの飼育、作物を使つての調理などの取り組みを更に充実させていくことで、地域や保護者からの期待を高められるようにしたい。
- ・地域の中にある保育園という意識を負担と感ぜず、楽しさと思えるようになりたい。